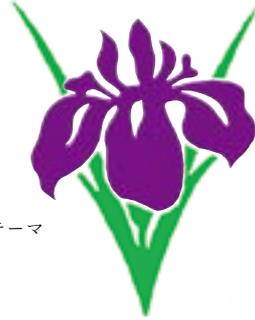


THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyar@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 太田 宗一郎
幹事 杉浦 文雄
会報委員長 小川 耕示

2010 ~ 2011年度 国際ロータリー Ray Klinginsmith (レイ・クリンギンズミス) 会長テーマ

Building Communities Bridging Continents 地域を育み、大陸をつなぐ

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2703回例会プログラム

[当年度=22回目；当月=3週目]

2011年（平成23年）1月17日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱
……………それこそロータリー
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. お祝い
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)
9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(1/24) ……

卓話 「セントレアの現状と課題」

講師 中部国際空港株式会社

取締役会長 平野 幸久 様

(紹介者 橋 典子 会員)

(1/31) ……クラブフォーラム

(ロータリー情報委員会)

卓話 「ロータリーを知ろう」

講師 地区広報委員会

委員長 裕 伸夫 様

(豊田西 RC)

(紹介者 鈴木文三郎 会員)

13:00 14. 本日のプログラム

卓話 「Next Stage いいまち刈谷
～新たなる始まり～」

講師 刈谷市長 竹中 良則 様

(紹介者 橋 典子 会員)

15. 謝辞
16. 点鐘……〈会長〉
17. 閉会宣言

13:30 18. 散会

出席席

会員総数 91名 出席免除 25名
出席義務者+免除者の内例会出席者 81名
欠席 10名 出席率 87.65%
前々回 (12/20) の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 1月10日ステファニー送別会をホストファミリーの方々新世代委員会の皆さんと千早苑で又、13日中部国際空港にて見送り会を行いました。
2) 2013～2014年度ガバナーノミニ選出の報告がガバナー事務局よりまいりました。候補として西尾ロータリークラブ田中正規君が指名されました。今年度のIM実行委員長の方です。

幹事報告

- 1) 豊田西ロータリークラブより40周年記念誌が届いております。事務局においておきますのでご覧ください。
2) 中根会員が退会されましたので会員数91名となりました。
3) 2008年度ガバナー片山主水さんが本を出され届いております。事務局にありますのでご覧ください又津島ロータリーより地区補助金事業で作られた海部津島人名事典が届いております。

委員会報告

●雑誌委員会

1月は、ロータリー理解推進月間です。特集はロータリー理解推進月間“故きを温ね、新しきを知る”と題し

て2010年～11年度国際ロータリー会長レイ・クリンギンスミス氏に、ロータリー哲学に関してのハリスの考えが、現代の私たちに与えたものについて聞いています。

“最もよく奉仕する者、最も多く報いられる”という第2のロータリースローガンをもたらしたアーサー・フレデリック・シェルドンについて忘れ得ぬその名と題した記事が載っております。

ロータリー思い出写真館では、1920年東京ロータリークラブ創立以来の日本のロータリー90年の歩みが掲載されてます。

いま、世界では、昨年9月に続きカリブ海のイスパニョーラ島にあります、ハイチ共和国での地震発生から1年が経過した今の状況が掲載されております。

「ロータリー・アット・ワーク」には、2760地区より岡崎東・名古屋南・中部名古屋みらいの3クラブの記事が載っております。

新年の例会で、ご報告致しましたが『ロータリーの友』2月号の「ロータリー・アット・ワーク」に、当刈谷クラブの杉浦芳一国際奉仕委員長の記事がトップ掲載されます。

会長あいさつ

ボストン美術館浮世絵名品展

太田宗一郎



先日の例会にて名古屋ボストン美術館の館長に卓話をお願い致しましたが、その後、名古屋ボストン美術館で開催されておりますボストン美術館浮世絵名品展第2弾「錦絵の黄金時代」に行ってきました。浮世絵は江戸時代の写真でありプロマイド

であります。

今回の展覧会は主に清長、歌麿、写楽を中心に、なおかつ、肉筆画の浮世絵は少なく、版画の浮世絵がほとんどの展覧会でした。特に錦絵と言われるゆえんは、女性の美しさのみならず、簪（かんざし）などの装飾品や着物の柄と色彩の美しさであり、役者絵も派手な着物と役者の所作を楽しめるところであります。また保存の良さにより、色彩がしっかりと残っており、当時の美しさを良く残しておりました。普段我々が見る作品は色彩が変色し、なおかつ紙も日焼けしており絵全体が疲れているような感じが致しますが、今回の展覧会の作品は保存状態は大変良いものでした。また、入場者が少ないために、作品自体をゆっくりと観賞することが出来る展覧会でした。

また、色をいれずに摺ってわずかなでこぼこを表した空摺りや、髪の毛の生え際の1本1本を表したり、乱れた髪も表されていたり、細かい模様をよく似た色を重ね摺りして柄に深みを出したりと職人技が随所に見取れます。江戸時代の職人の粋な技術を楽しむにも良いと思います。

(2)

浮世絵は私たちが小学校のときに行った木版画と基本的には同じであります。しかし、美しくなおかつ沢山の色を使い、1つの作品で多くの枚数を摺り上げなければなりません。そのためには、清長、歌麿、写楽等の絵師が絵を線描きし、それを元にして彫師（ほりし）がその線を残すように版木を彫ります。その版を元に絵師の指示により、着物、髷（まげ）、簪（かんざし）等の柄の版を色別に起こします。それを摺師（すりし）が順番に摺りあげ完成します。そしてそれをプロデュース致しましたのが版元であります。版元がいかにか斬新で美しい作品を生み出せる絵師を見つけて来るかによってその版元の名声が決まります。その四者どれが欠けてもこれほど素晴らしい作品は出来ませんでした。要するに浮世絵は絵師と彫師と摺師と版元の合作であります。そして、その版元の最たるものは葛屋重三郎であります。葛屋重三郎は歌麿、写楽、北斎等々多くの作家を発掘しております。葛屋重三郎は浮世絵版画の立役者でもあります。

この葛屋重三郎の版元の作品も出ておりますので是非ご覧いただきたいと思ひます。

この展覧会は1月30日までの後わずかな期間しかありませんが、是非浮世絵版画のすばらしさを見ていただきたいと思ひます。

還暦祝い



岡本 巧 会員

お祝い

1月の会員の誕生日…神谷光義、原田光二、橘典子、渡辺富香、竹内一郎、白濱重人、岡本巧、兵藤文男、小川耕示、大参富昭会員。

配偶者の誕生日…坂貞子（茂）、高野延子（基弘）、八木恵（道之）、杉山恵美子（欣輝）、原田トモ子（光二）、杉浦眞佐子（世志朗）、鈴木ゆかり（文三郎）様。

結婚記念日…池田憲司、加藤哲也、杉浦芳一、角谷広高、吉岡秀記会員。

1月度入会記念日…杉浦世志朗、鈴木文三郎、白濱重人、伊藤禎康、下谷敏朗会員。

刈谷市長 竹中 良則様



刈谷市の「災害に対する取り組み」について、お話しさせていただきます。

刈谷市は「三河平野」に位置しており、地理的に恵まれた環境にあり、自然災害は、「台風等による暴風雨」、「集中豪雨による洪水」、そして心配されています「東海・東南海地震」の対策を中心に取り組んでおります。

刈谷市におけるこれまでの自然災害は、まず、伊勢湾台風が挙げられますが、昭和34年9月に発生した伊勢湾台風による本市の被害は、死者14人、全壊家屋225戸、半壊2,033戸、堤防の決壊は、逢妻川流域で39ヶ所、猿渡川流域で14ヶ所、前川流域で12ヶ所でありました。橋の流失・破壊の被害も16ヶ所におよび、罹災者総数も1万5,030人、被害総額は30億円にも達する未曾有の被害をもたらしました。

また、記憶に新しいところでは、10年前、平成12年の9月に発生した東海豪雨がございしますが、本市では幸いなことに死者は出ませんでした。年間総雨量の3分の1が、2日間で降るとい集中豪雨に会い、刈谷市今川町を中心に床上浸水423世帯、床下浸水392世帯という甚大な被害を受けました。

洪水に対して、本市では平成13年に「災害対策整備事業」として洪水氾濫解析を行い、「洪水ハザードマップ」を作成しております。また、平成21年には水防法の改正により内水氾濫も考慮し、「洪水ハザードマップ」の作り直しを行い、市内の全戸に配布させていただいております。

また、平成13年に、新たに「雨水総合対策整備計画」を立ち上げ、現況排水施設の実態調査や、段階的な浸水区域の予測を行い、本事業の整備優先順位について定める計画を策定しております。

この整備優先順位に基づき、「準用河川の改修」を行うとともに、緊急排水を行うための「排水ポンプ付き自動車」の購入、あるいは「馬瀬口排水機場」の整備、3ヶ年継続の「弁天排水機場整備事業」により、4台の排水ポンプの増設を行い、昭和町、神明町、矢場町からJR逢妻駅周辺地域の浸水被害の低減に努めております。

※参考値	富士見公園	表面貯留	580t
		地下貯留	1,400t
	南池		4,480t
	間野四郎池		3,200t

「地震災害」に対して「地震災害に対する備えですが、平成14年に東海地震の「地震防災対策強化地域」に追加指定されたことを受け、平成15年に東海地震に対するハザードマップを作成し、全戸に配布させていただいております。

公共施設の耐震化につきましては、15年前の「阪神淡路大震災」により耐震基準の見直しが行われ、それを受

け、本市でも市内の「防災拠点」となる公共施設等の耐震化を推進し、子どもたちが通う幼稚園・小学校・中学校に関しましては100%の耐震化を実施し、安全の確保を図っております。

また有事の際に災害対策本部が設置される市役所新庁舎にも、免震構造を採用しており、刈谷市全体の公共施設等の耐震化率は96.5%となりました。

その他、地震被害により消防活動や緊急物資輸送などの救援・復旧活動に大きな混乱を及ぼす橋梁の倒壊を防ぎ、ライフラインを確保するため、岡崎・安城方面から本市に入り昭和町に向かう「重原跨線橋」、豊田・みよし方面から本市に入り朝日町に向かう「一ツ木大橋」、碧南・高浜から本市に入り天王町に向かう「巡見橋」、交通の要所となる衣豊1号橋、2号橋、3号橋の橋梁補強などを進めて参りました。

また、洪水や地震により市民の方が避難所生活を余儀なくされた場合に備え、学校施設を始めとする38箇所全ての避難所に備蓄倉庫を設置し、食料や毛布・自家発電機などの資機材を配備しております。その他、市内22地区にあります市民館も、「避難可能場所」として指定し、万一の場合に備えております。

そして、市民の飲料水を確保するため、「飲料水併設型100t級耐震貯水槽」9基を公園等に埋設するとともに、全ての小中学校（21校）に受水槽から直接、飲料水を提供できる「受水槽蛇口」の設置を行っております。
※参考 「原崎公園」、「野田公園」、「上池児童遊園」、「五軒屋集会所」、「北部市民センター」、「ついじ公園」、「山崎公園」、「小道公園予定地」、「刈谷消防署」

また北部・中部・南部に各1ヶ所ずつ整備しております「配水場」の配水タンク、これらを合わせまして、全市民10日分の飲料水を確保しています。

また、停電した場合に備え、避難所となる学校体育館に電力を供給する「太陽光発電システム」を、6中学校に全てに導入しております。

災害時には、情報の伝達が大変重要となってきます。

本市では、災害時の防災行政無線として、愛知県と市町村がデジタル多重回線で結ばれる「愛知県高度情報通信ネットワーク」に参加し、災害情報の収集及び提供に努めるとともに、電話回線が不通となった場合でも、市災害対策本部と防災関係機関、あるいは避難所、自主防災会会長、消防団等との連絡が可能な「地域防災無線システム」の整備を行っております。

今後も、少しでも災害による被害を減らすため、引き続き、建物の耐震補強、河川堤防や橋梁の補強、そして排水機場のポンプの増設等、ハード面の備えを進めるとともに、通信系の強化を図ってまいります。やはり、一旦、大災害が起きてしまうと、最後に頼りになるのは、市民の皆さん「一人一人の力」、そして（企業を含め）「地域の力」であると確信致しております。

さよならステファニー

